

令和6年度
第2回八戸市行政改革委員会 議事録

日 時 令和6年9月27日（金）午後2時00分～3時00分
場 所 八戸市庁 本館3階 第1委員会室
出席委員 武山委員長、田中委員、平山委員、松橋委員、蕨委員、山道委員
事務局 久保総務部長、小田総務部次長兼人事課長、清水行政管理課長、
三戸行政改革GL、赤石主幹、山田主査
次 第 1 開 会
2 審 議
(1) 第7次八戸市行財政改革大綱の進行管理について
(2) 第8次八戸市行財政改革大綱及びアクションプログラムについて
3 閉 会

次第2 審議 (1) 第7次八戸市行財政改革大綱について

委員長： まずは1件目「第7次八戸市行財政改革大綱の進行管理について」、事務局からの説明をお願いします。

〔事務局が資料に基づき説明〕

委員長： ありがとうございます。それでは今、事前にいただいた質問に対してはご回答いただきましたけども、ただいまの事務局側の説明に対して質問、ご意見、コメント等あればお受けしたいと思います。事前に質問された方、ただいまの回答でどうだったかという点も含めて。

A委員： 避難訓練の件と、子ども教育、支援のご質問とさせていただきます。ご回答ありがとうございます。避難時、たまたまだったのかもしれないのですが、避難のときに車椅子で入れずに車で過ごされて、そのとき自分たちが難しさを感じたとおっしゃっていたので、もし改善できる点があればと思って伝えさせていただきました。度々研修等されているということだったので、より良くなって市民の方々も安心できればいいなと感じております。

あとは、子どもさんの教育、支援について、すごく人数が増えてきているということで、必要とされている子どもさんも多いのだなと感じたことと、協力企業さんがいるということで、これから市だけでというのは難しいと思うので、10年先20年先も考えて、これから先も長く継続して取り組んでいただければと思っての意見でした。よろしくをお願いします。

委員長： そのほかございますか。

B 委員： 世の中の情報が不安をもたらすような情報が多いので、そこに惑わされることなく、変なことを申し上げるようなのですけども、私はこれからこの先人口を増やすことは可能だと思います。過去は変えられないけれども未来は変えられるという私の中で信念がありまして、どうして少子高齢化、人口減少に至ったかというその原因に真摯に向き合うことでこの問題も解決できると思っております。問題から逃げるのではなく、そこにしっかり向き合うという姿勢が私たちひとりひとり大切なのではないのでしょうか。天災というか、自然には勝てませんが、人口を増やすという事は可能なことだと思います。御礼が遅くなったのですが、ご回答いただきましてありがとうございます。

委員長： そのほか、何かございますか。

委員長： 事前にあった質問の回答の中で、地域の運動会に小中学生の参加が少ないということがあったのですが、全国的に見ると小学校の運動会と地域の運動会を一緒にやっているようなところもあるかと思うのですよね。そうすると生徒については強制的な参加ということになってくるのかなと思いますけれども。

ここでは子育てしていなかったので実情がよくわかりませんが、八戸の場合は学校の運動会と地区の運動会は別で開催しているということなのですか。

C 委員： 別になりますね。

事務局： きちんと調べたわけではありませんが、おそらく担当部署も違うと思いますので別々に企画していると思われれます。

C 委員： 小学校、中学校は学校単位で、地域のものは新井田地区とか下長地区とか広い感じでやっているように見えます。私も参加はしていませんけれども。

事務局： 町内とか町内会のメンバーが主体でやっているのですけども、そうになると高齢の方ばかりになるので、その孫とか娘の参加とか、子どもを連れてくるようにということは見聞きしています。最近では私も 10 年位出られておりませんが、当時は若い人がきて参加したり走ったり子どもが来たりとありましたけども、理想的なのはそのように様々な世代が集うことだと思っておりますので、そのような形でいければと、市民連携推進課にも伝えておきます。

委員長： そのほか委員の皆様から。よろしいでしょうか。D 委員、何か。

D 委員： 改革の柱の 2 の No.42002 で、ブックセンターの事業の充実というと

ころでふるさと寄附金という表現があったのですけれども、これはふるさと納税とは違うのでしょうか。

事務局： 同じものでございます。

D委員： ありがとうございます。

委員長： そのほかよろしいですか。

次第2 審議 (2) 第8次八戸市行財政改革大綱及びアクションプログラムについて

委員長： 次に2件目「第8次八戸市行財政改革大綱及びアクションプログラムについて」、事務局からの説明をお願いします。

〔事務局が資料に基づき説明〕

委員長： はい、ありがとうございました。それではただいまの説明に対してご質問、コメント、ご意見等あればお受けしたいと思います。

D委員： 一ついいですか。前回いただいた資料の中で、改革の3本柱のうち、柱の1は「人材育成の推進と組織運営の最適化」というふうに人材育成というのが先になっていたのですけれども、今回は組織運営の最適化が頭に来ている、これは何か強調すべき点というか意味というか、何かあるのでしょうか。

事務局： 組織と各個人の能力を考えた場合に、やはり役所としましては仕事を進める上で組織力の方が大きなウエイトを占めており、組織力の向上が求められるのではないかとということで、推進期間の中で成果を挙げるため、優先順位として先に設定しました。以上でございます。

D委員： ありがとうございます。

委員長： そのほか何か。では私の方から。事前の質問の中にも職員の給与についてのコメントをいただいていたし、全国的に見て行財政の中で職員数を削減していくことがかなり重要な目標とされているかと思うのですが、人数そのものよりは人件費比率の方が重要なのかなという気もするのですけれども。働き方によっては、同じ仕事を多人数でシェアする場合、人件費は増えないけれど人数は増えてしまう訳なので。目標として人数というのはいいのかと思いますけれども、合わせて人件費の比率とか、働き方というところでいうと残業の量も管理しなければいけないという気もするのですがその辺についてはどうでしょうか。検討いただければと思います。

事務局： 委員長のご指摘の通り、時間外の削減ですとか働き方改革が今求められているところでございますので、そちらを的確に反映した指標の設定ができないか、今後検討してまいります。以上でございます。

委員長： 前回も言ったのですが、人材としての能力を適切に評価するのは難しいと思います。今、国家公務員や宮城県もそうですが、小学校の先生になりたい人がどんどん減ってきているという状況なので、その辺りが一つの指標になるのかなど。市職員は、割とうちの学生を見ていると、なりたくてもなれないという感じで、高嶺の花という感じもあるのですが、全体的にはどうなのかと。応募倍率である程度計れるのかなという気もするのですが。給与の話にもありましたが、市職員になりたいと思ってもなれないというところでそれなりのポテンシャルが保てるということがあるのかなと思うのですよね。なりたいと思う人が少なくなってくると、職員の能力という意味では陰りが見えてしまうのではないかという気もします。

事務局： 指標の方は職員数に関しては今までどおり5年間のスパンの定員数ということは、計画と実績というのは離れてはしまうのですが、当初の段階でどれくらいの業績が今後5年間で見込まれるかということを目標に計画的にやっていくことが必要だと思っております。

他団体との比較においても、八戸市は中核市ですが、同じ中核市でも20万都市から5,60万都市などと規模は様々なのですが、特徴的な部分として人数に同じ土俵で比較できる・できないというのがすごくありまして、例えば消防の職員数は広域事務組合なので除かれております。同じ土俵で測るといようなことを考えると広域事務組合で消防をやっている団体との比較なども考えていますし、あとは会計年度任用職員という新たな制度も令和2年度から始まってそれを運用していきまして、いわゆる臨時職員の方々の人件費も期末・勤勉手当で増えているということで、人数についてはいつも変動しているのですが、決算額とかそういうのは他都市との比較によって適正に管理していく必要があると思っておりますが、人口減少の中で業務自体が増えていっておりますので、適切に仕事を進めることができるような形を確保しつつ、定員、総人件費も留意しながら、バランスを見ながら進めていきたいと思っております。

採用については、本当に課題として、今特に設定は考えていないのですが、採用自体は専門の土木とか電気とか特定の部分は苦勞しているところですので、どうしたら来ていただけるのか、紹介していただきたいくらいと思っております。以上です。

委員長： ほか何か。感想的なものでもよろしいのですが。

委員長： 今の中でも3ページですかね、人口減少の話と、4ページに出生率の話が出ていましたが、将来的な人口推計に幅があるとすれば、税金なんかは下側を見ていかないと安全性が取れなくなってしまうのかなと。

まち・ひと・しごと（創生総合戦略）や将来計画では人口あまり減らない前提で計画しがちですけれども、ある部分はシビアに見ていかなければいけないのかなと。3ページにあるように、もっと減るような予想も見ていかないといけないのかなという気がします。安全を考えて上側を取るのか下側を取るのか。これから先、人口がどれくらい減るのか、増やせるのではないかという話もありますが、税金の予測みたいなどころでは人口が大幅に減るところを見ておかないと誤ってしまうのかなと懸念しています。

あとは4ページのところで、青森県は全国の減り方に比べると上向いているのかなと。今の知事が青森モデルといって出生率2.0%を目指すと書いていたと思うのですが、八戸市は県の下部組織ではないので知事が言うことに従わなくてもいい部分はあるとは思いますが、人口減を止めるためには、知事に協力するというか、八戸市も出生率対策を考える必要があるのかなと思います。

もう一点、資産管理の話も行財政改革の中で書かれていますが、この先人口が本当に減るとすれば、資産を減らしていくことを考える必要がある段階が訪れるのかなと。人口減ったのに同じだけ資産を持っていればどんどん負担は大きくなってしまいますので。施設を合併する、合同で使っていくことも考えているとは思いますがけれども、資産全体を減らすことも考えなければいけないですし、資産の維持管理費の比率も大きくならなくならないように考えていかなければいけないのかなと思います。

委員長： そのほかに何か。

D委員： 職員数の話ですが、この指標は市民病院と交通部は除いた一般行政職員ということですね。

事務局： そうです。この表においては。

D委員： 会計区分が違うので、市民病院は市民病院で職員の管理をしているし、交通部は交通部で職員管理をしているということでしょうか。

事務局： そうなのですが、よくある他都市の比較というものはないのです。ある程度一定の同じような基準で比較する必要があるのですが、都市によっては極端な話病院がないとかバスがないということもありますので。そうすると普通会計・一般会計での比較となってきます。

D 委員： 普通会計の範囲内で、ということですね。わかりました。ありがとうございます。

委員長： そのほか感想的なものでも。E 委員、ありますか。

E 委員： 柱3の財産の部分ですが、公的不動産の利活用というところで、生活困窮者というか生活保護までいかない方とかも結構多くいらっしゃる印象で、市営住宅等の抽選も注目されている方が多いと普段仕事をしていて思います。ご家族がいたりシングルマザーだったりという家庭の方に向けた公的不動産、住宅の整備とかというの、結構古い市営住宅は壊して売りにでていたりというのもあるとは思いますが、民間の賃貸住宅よりも安い金額で最初入れるというところがあったりするとそういう方でも八戸で暮らしやすいとか。周辺でいくとおいらせ町とか六戸町などは若い世代も人口が増えてきていて、住宅も増えてきているようです。そういった公的不動産も込みで住宅に向けた支援みたいなのところも、公的不動産を絡めて利活用できないのかなと思いました。以上です。

委員長： C 委員は何か。

C 委員： 私、ワードの資料がとても苦手なのでパワーポイントになってとても見やすいと思っております。

気になったところなのですが、先程の進行管理から次の大綱というところで、これがBだったAだったというのでもいいのですが、そこに至るプロセスというか、オーブンプロセスの方法をとることはできないのかなと思ったりしています。例えば、これはこういう理由だからできなかったけど、こうしたら改善できた、というのがもっと見える化してもいいのではないかという気がします。オーブンプロセスとPDCAですね。体育施設の予約がオンラインで出来るようになってとても便利だと思ったのですが、予約システムを使うためにはまず現地に行って登録をしなければいけないというアナログプロセスが一個挟まっています。青森県内の他の市の予約も取りづらいとは思うところも多々あるのですが、導入したその先というのも見えたらいいなと感じました。以前、ここの委員会か他の委員会で言ったのかはわかりませんが、オーブンプロセスすることで民間の方にも落とせる手法ですとか技術もあるのかなと感じました。

これは資料3の2ページ目ですが、PPPとPFIの推進というところでも、どういうふうにここが推進されて、どういうふう到我々民間がコミットできるのかなとか、八戸市の未来を民間も一緒に考えるにはどうすればいいんだろうというのがもっと見えるといいなと思いました。以上です。

委員長： ありがとうございます。そのほか何かありますでしょうか。

B 委員： E 委員から生活困窮者のお話が出たのですが、生活困窮者に限らず、今お米も倍になって大変な状況になっていると思うのですが、私たちがもう少し土に触れるような生活、自給自足、出来る範囲でよろしいと思うのですが、自分の住んでいる近隣の空いている空き地を使用するにも何か難しいものがあるような話を聞きました。そういった制限や制約を取り外してもう少し柔軟に対応していただければいいのかなと思ひまして。現金とか商品券とかの支給も即時必要な場合もあるかと思うのですが、生きる糧というか、自分で食べ物を作るといふ技術を培えたら大きい財産になるのかなと思ひます。自立ということですね。うまくお伝え出来ないのですが、ありがとうございます。

委員長： ヨーロッパなんかは市民農園という形で農地の貸し出しを行って、結構そこで趣味というか、やっている人がたくさんいるという話を聞いたことがありますね。

C 委員： 八戸にはないのですか、市民農園。

B 委員： 市民農園はあるのですけれども、そこに行くのが大変という話があつて。

C 委員： どこにあるのですか。

B 委員： 尻内というか。

事務局： 農業経営振興センターというところがございます。

B 委員： 白山台の地区にも出来ましたね。そこに行くにも大変というお話を聞くので、あとは空いてないとか。そうすると水やりでも細々したことでも、自宅から行き来できる範囲のところが望ましいのかなと思ひます。そうすると地域のコミュニティ形成にもつながるのかなと考えています。車社会なので、隣の方とお顔を合わせて挨拶をする機会というのも一年に一回あるかないか、回覧板もポスティングじゃないですけどチャイムを鳴らして回覧板ですよというお付き合いも、寂しい話ですがうちの地域もそうなので、いくらでも人が外に出るように、世代を超えてつながりが持てたらいいのかなと思ひます。

委員長： そのほか、前半の部分も含めてもよろしいです。何かございますか。A 委員、いかがですか。

A 委員： 感想なのですが、資料 3 の 2 ページ目の全庁連携型取組、こういっ

た取組で改善されていくものがすごく増えるのではないのかなと。規模は違うのですが、うちの会社でも部署間の連携があることで情報共有したりとか改善策とかがたくさん出てきたりもしたので、各委員会でも今こちらの委員会ではタブレットを活用されていますけど、郵送とかメールとかやり方がそれぞれ違うので、細かいところでもいろいろな改善が見られるのかなと思って楽しみにしています。

委員長： そのほか何かございますか。

C委員： 他部署間の連携は私もすごく気になっていて、この取組はいいな、どこでやっているんだろうと思うと、こちらの部署のこの担当課なんだとか、これはこども未来課でこれはデジタル推進室なんだとか、組めばいいのと思うことが結構あるなと思って。私も事業をやる上でこことここが連携してくれたらと思うことが多々あるので、そこを期待したいなと思います。

委員長： 委員会の進め方みたいなどころはかなり統一して扱える部分もあるのかなと思います。部署ごとではなくて。取り組むところは全庁でというのが望ましいのかなと。

委員長： そのほか、よろしいでしょうか。ないようであれば、以上で予定の審議はすべて終了いたしました。